気候変動

第4期

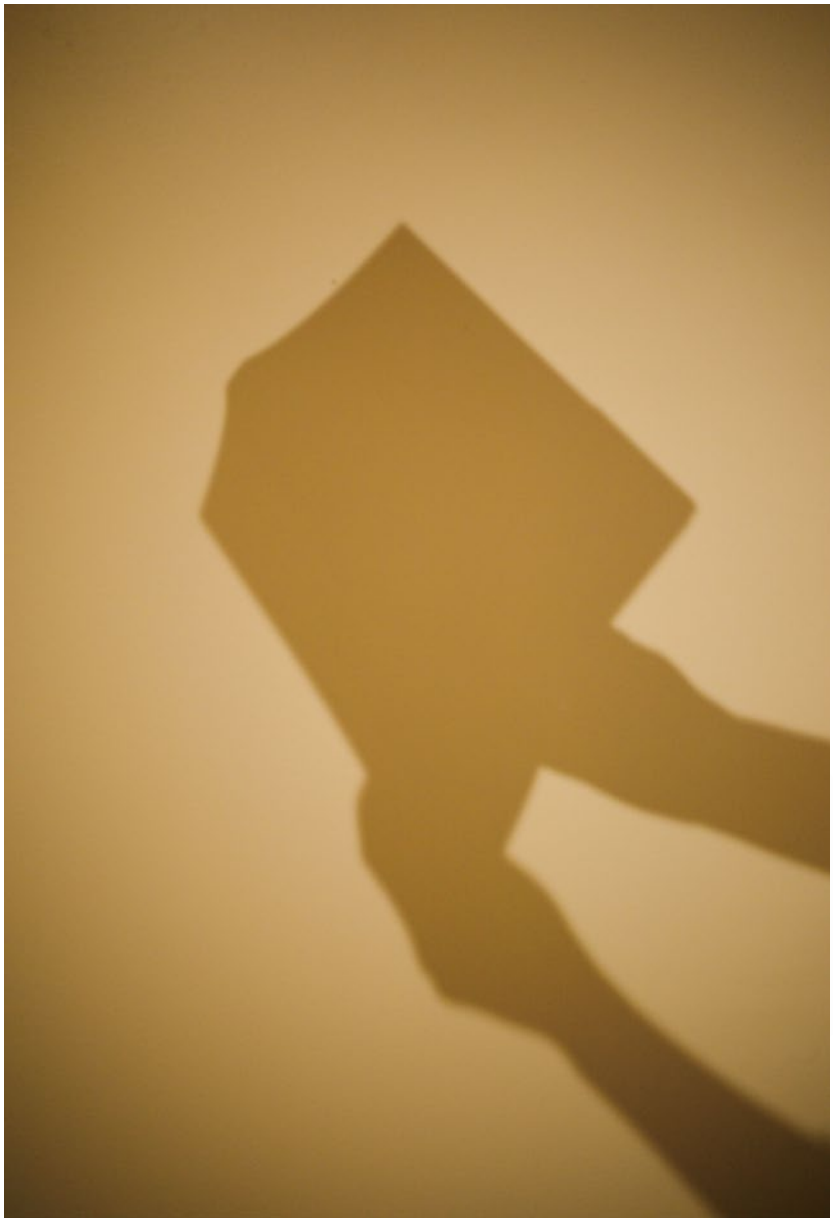
暮らしから捉え直す SDGs/気候アクション

聖心女子大学グローバル共生研究所 | BE＊hive

暮らしから捉え直す SDGs／気候アクション

森岡書店　森岡督行
未来へ手渡す、豊かさの多様性

自己変容からはじまる社会変容……。この展示では、そのための「SDGs／気候アクション」を「一冊の本を売る書店」森岡書店の森岡督行さんと一緒に考えます。我慢をするのではなく、有り難味と喜びをもって日常を慈しむ ―。そんな森岡さんのサスティナブルな1日を通して、持続可能な未来の方への歩みを確かにしていきたいと思うのです。



写真：山根晋

2020年12月7日[月]…2021年4月28日[水] 土・日・祝 休み 入場無料

開館時間　月～金　10時～17時 開館時間は変更となる場合がありますので、研究所ウェブサイトでご確認ください。

撮影ご協力｜スターバックスコーヒージャパン株式会社、株式会社スワン、株式会社三越伊勢丹 三越銀座店、株式会社中村活字、パタゴニア
製作｜聖心女子大学　企画・動画制作｜山根晋　グラフィック・展示デザイン｜三星安澄　設営｜加藤治男　進行マネージメント｜竹田理紀

森岡督行（もりおか・よしゆき）

1974年山形県生まれ。森岡書店代表。著書に『BOOKS ON JAPAN 1931 - 1972 日本の対外宣伝グラフ誌』（ビー・エヌ・エヌ新社）、『荒野の古本屋 』（晶文社）など。展覧会の企画協力、ブックセレクト、ファッションのプロデュースなども行う。2020年5月には伊藤昊写真集『GINZA TOKYO 1964』を企画、編集、出版した。

聖心グローバルプラザ BE＊hive 展示＋ワークショップスペース
聖心女子大学 グローバル共生研究所 Sacred Heart Institute for Sustainable Futures [SHISF]
150-8938 東京都渋谷区広尾4-2-24 聖心女子大学4号館／聖心グローバルプラザ
e-mail：jimu-kyosei@u-sacred-heart.ac.jp
HP：https://kyosei.u-sacred-heart.ac.jp/

暮らしから捉え直す SDGs/気候アクション

Reconsidering our daily life SDGs/ Climate Action

森岡書店　森岡督行　未来へ手渡す、豊かさの多様性

地球規模課題……。
あなたは、どんなイメージを持ちますか？
どこか遠いところで、
とてつもなく大きな問題が起きていて、
無力感を感じてしまう人もいるかもしれません。
ただ、気候変動については、その主な原因である
CO_2などの温室効果ガスを抑えるために
日々の暮らしでできることはたくさんあります。
自己変容からはじまる社会変容……。
この展示では、そのための「SDGs /気候アクション」を
「一冊の本を売る書店」森岡書店の森岡督行さんと
一緒に考えます。
我慢をするのではなく、
有り難味と喜びをもって日常を慈しむ ― 。
そんな森岡さんのサスティナブルな1日を通して、
持続可能な未来の方への歩みを
確かにしていきたいと思うのです。

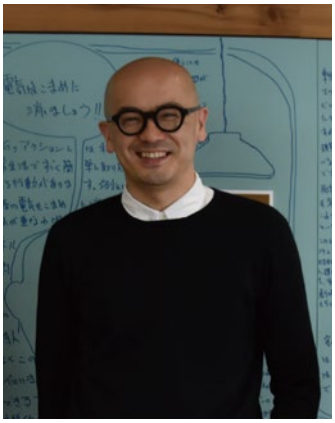
Global Issues…….
What kind of image do you have about global issues?
Something happening somewhere far away from us, some people may feel helpless because it may seem like an enormous problem.
Concerning climate change, there are many things that we can do in our daily life to control greenhouse gases, such as carbon dioxide (CO_2), which is the main cause of global warming.
Social transformation begins with self-transformation.
In this exhibition, we will look at “SDGs/ Climate Action” for that purpose, together with Mr. Yoshiyuki Morioka of Morioka Shoten “The Bookstore that Sells One Book”.
Rather than enduring life, we will be grateful and joyful for our daily life.
Spending one sustainable day with Mr. Morioka, we would like to make sure that we are on the path to a sustainable future.

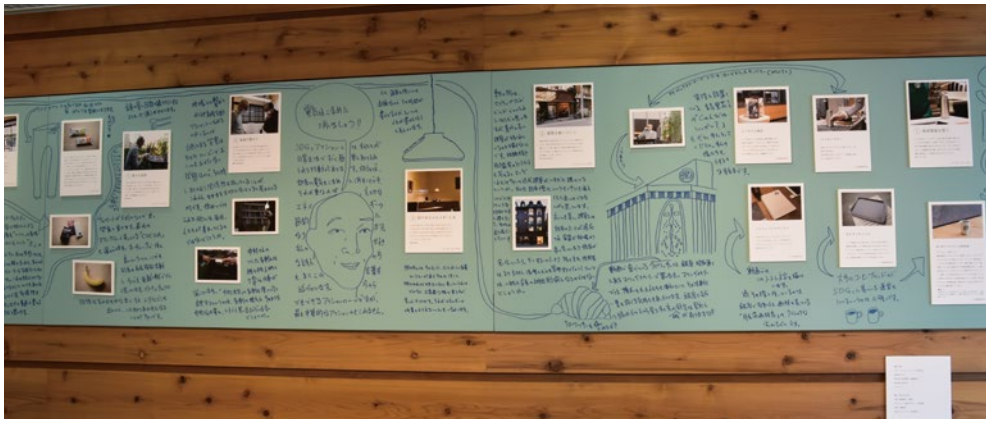
森岡督行

1974 年山形県生まれ。森岡書店代表。
著書に『BOOKS ON JAPAN 1931 – 1972 日本の対外宣伝グラフ誌』（ビー・エヌ・エヌ新社）、『荒野の古本屋 』（晶文社）などがある。企画協力した展覧会に、「雑貨展」（21_21 DESIGN SIGHT）、「そばにいる工芸」（資生堂ギャラリー）、「畏敬と工芸」（山形ビエンナーレ2016）、「Khadi インドの明日をつむぐ」（21_21 DESIGN SIGHT）などがある。京都・和久傳のゲストハウス「川」や、「エルメスの手しごと」展のカフェライブラリーのブックセレクトを担当した。
資生堂『花椿』サイトで「現代銀座考」を連載中。
2020年5月には伊藤昊写真集『GINZA TOKYO 1964』を企画、編集、出版した。

Yoshiyuki Morioka

Born in Yamagata Prefecture in 1974.
The representative of Morioka Shoten.
His books include *Books on Japan 1931–1972 Japan’s Foreign Promotion Graph Magazine* (BNN Shinsha) and *Secondhand Bookstore in the Wilderness* (Shobunsha).
Among the exhibitions in which he cooperated in the planning, they include “Miscellaneous exhibition” (21_21 DESIGN SIGHT), “Crafts by the side” (Shiseido Gallery), “Awe and Crafts” (Yamagata Biennale 2016), and “Khadi India’s Tomorrow” (21_21 DESIGN SIGHT). His works also include the Book Select at the café library of the guesthouse “Kawa” in Wakuden, Kyoto and the “Handwork of Hermes” exhibition.
Contemporary Ginza Thoughts is being serialized on the Shiseido “Hanatsubaki” website. In May 2020, he planned, edited, and published the photo book *Ginza Tokyo 1964* by Ko Ito.





SDGs８つ窓

⑦

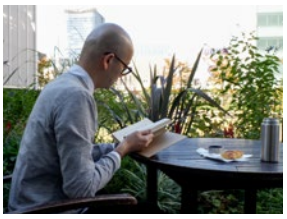
⑦ 移動の楽しみ

通勤や通学など、なるべく早く効率的に移動しなければならないことも多いですが、時には時間に余裕を持って、歩いたり自転車で移動することをオススメします。エコロジーかつ健康的であることは言わずもがなですが、今まで見落としていたものや思わぬ出逢い、喜びを見つけることができるかもしれません。

●愛用の自転車

未来へ手渡す、豊かさの多様性

アウトドア企業として知られるパタゴニアは、実は体にも地球にも配慮し、再生する食品を提供しています。例えばシリアルバー、スープ、魚介のオイル漬け、ビールまで。なぜ食品の取り組みをするのか、という答えとして、その先の未来を創業者のイヴォン・シュイナードはエッセイの中でこのように描いています。「地球を枯渇させるのではなく、修復し、風味豊かで栄養価の高い食品で満たされた未来、土壌の健康を構築し、動物の福祉を確実にし、農業従事者を保護する方法で食品が生産されることをたしかにするリジェネラティブ・オーガニック認証が広く適用される未来」。何をどう食べるかということも、再生可能な未来を確かなものにするのです。



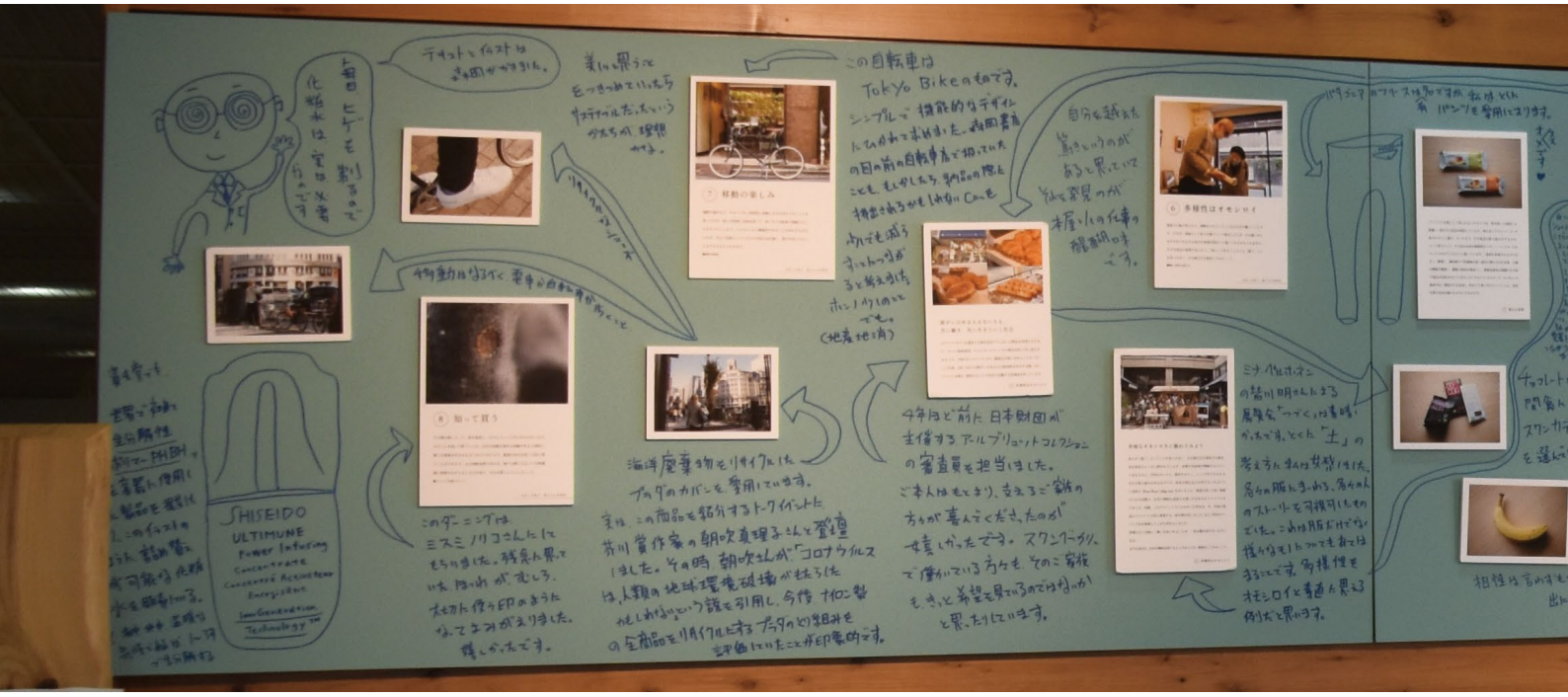
⑤ 豊かな食事

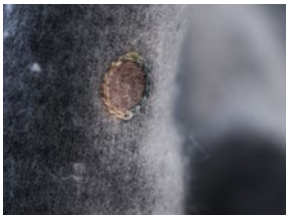
美味しい食事をお腹いっぱい食べることのできる暮らしに感謝しながら、その食べ物がどこから、どのようにして食卓に運ばれてきたのか？を知って想像し、選択することで本当の意味での豊かな食生活を実現したいものです。また、適切な量を食べることはフードロスを減らすことに繋がり、自身の健康維持にもつながります。

●適切な量を食べる

未来へ手渡す、豊かさの多様性

⑤





⑧ 知って買う

その物が誰によって、何を原料に、どのようにして作られたのか？など、そのことを知って買うことは、自分の知識を深める体験であると同時に、物への愛着が生まれるきっかけになります。愛着があれば長く大切に使うことができます。また消耗品等であれば、捨てる際になるべく自然環境に負荷のかからないものを知り、それを買うようにしましょう。

●ダーニングを施したニット

未来へ手渡す、豊かさの多様性

⑧

多様なオモシロさに触れてみよう

各々が「違う」ということを見つけ合い、その面白さを発見する窓は、実は身近なところに開かれています。企業や自治体が開催するイベントはもちろん、学内のサークル、書店やカフェ、ショップなどでもさまざまな取り組みがあるはずです。昨年は聖心女子大学でもパタゴニアと共同で Worn Wear College tour を行いました。愛着を持って長く着続けられる洋服で、自分の個性を表現する楽しさを伝えるイベントになりました。実際、このプロジェクトにかかわった学生は、今、学食の食品ロスについて大学に提案する一歩を踏み出しました。また、学内のペーパレス化を提案してくれた学生もいました。

多様な人と交流し「個」を見つめることが、一歩を踏み出すきっかけになる。

まずは身近な、自分が興味を持てるところからでも、参加をしてみましょう。

⑥ 多様性はオモシロイ

障がいのある人もない人も、共に働き、共に生きていく社会

スワンベーカリーを運営する株式会社スワンはこの理念を実現するために、ヤマト福祉財団、ヤマトホールディングス株式会社と共に設立されました。1998年にスワンベーカリー銀座店が第1号店としてオープンして以来、350人以上の障がいのある人の経済的な自立を支援。おいしいパンを焼き、提供することで社会で活躍する居場所を作っています。

⑥ 多様性はオモシロイ

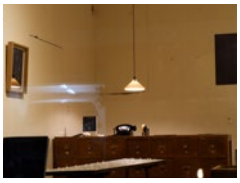
⑥ 多様性はオモシロイ

働者の立場で考えたり、理解をするということはなかなか難しいことです。ですが、前提として各々が違うという視点に立てば、その違いからそれぞれに生まれる見方や表現が面白いと感じられるかもしれません。まずは身近な家族や友人から、「同じ」であることよりも「違う」ことを見つけ合い、その面白さを発見してみましょう。

●個人い世代のお母さま

未来へ手渡す、豊かさの多様性

⑥



③ 限りあるエネルギーと水

エネルギーや水がどうやって私たちの暮らしに届けられるのかすそのことを知るだけでも、それらに限りがあることが容易に想像できます。ボタンを押すだけ、蛇口をひねるだけの暮らしに慣れた私たちが、知らず知らずのうちに大切なエネルギーや水を枯渇させてしまうことがないように、できることとは何でしょうか。

●ECO関根水使用

未来へ予託す、豊かさの条件性

② 建物を継いでいく

建物を有効活用し決世代に継いでいくことは、エコロジーの観点からだけでなく、私たちの文化を守り伝えていくことにもなります。古き良き建物には、そこで暮らした人々の歴史や時間が色濃く残っていて、そのことが文化にとって重要なのです。また、そうした建物が多く残る街の景観は、とても美しいものです。

●古き良き建物に調和を構える

未来へ予託す、豊かさの条件性

エシカルな調達

コーヒー生産者、そして生産地域との関係を構築しながら、長期的に高品質なコーヒー豆をエシカル に調達する取り組みを行ってきました。10年以上の取り組みにより、2015年には、スターバックスが買い付ける全てのコーヒー豆の 99%が、エシカルに調達されるに至り、以降継続しています。

① 地球環境を想う

マイタンブラー

持参したタンブラーやマグカップに購入したドリンクを使用する取り組みも。
資源の節約に協力したお礼として、本体価格（税抜）から 20円値引きしてくれます。

① 地球環境を想う

① 地球環境を想う

すべての生命にとって、たった一つの大きな家である地球。普段、あまりに大きすぎて実感することは難しいですが、この大きな家によって、私たちは他の動物や生命と共に生かされています。このことを忘れないために、地球環境に想いを馳せ、個人ができることから小さな行動や選択を積み重ねて、この地球の良き住人でありたいものです。

●マイタンブラーを使う

未来へ予託す、豊かさの条件性

③

②

①

④ 地域の繋がり

灯台下暗しとはよく言ったもので、思わぬ宝は身近な地域に隠されています。それは、魅力的な人であったり、素晴らしい技術であったり、美味しい食べ物だったりと、自分の等身大の暮らしを豊かにしてくれるものです。また災害時や何かあった時のセーフティーネットとしても、地域との繋がりは大切です。

●隣にある活版印刷の老舗

未来へ予託す、豊かさの条件性

④

ミルクパックリサイクル

お店から出たミルクパックは、リサイクルによってペーパーナプキンやお手拭きに。また、コクヨ株式会社とのコラボレーションで、キャンパスノートにリサイクルする取り組みも行なっています。

① 地球環境を想う

豆かすリサイクル

コーヒーを抽出したあとに残る豆かす。この豆かすを有効に活用する、持続可能な循環システムの構築を目指した取り組みをさまざま行なっています。店舗で使用しているトレーも実は豆かすのリサイクルによるもの。コーヒー豆かすと固産水材を利用して作られています。また一部店舗の内装材としても、豆かすを活用しています。

① 地球環境を想う

使い捨てプラスチック資源削減

アイスビバレッジも紙カップで

結露の問題からプラスチックカップで提供してきたアイスコーヒーやアイスティーなどのアイス商品についても、ホット・アイス兼用の新しいペーパーカップでの提供が始まっています。内側と外側にラミネート加工を施すことで、冷たい液体を注いでも結露の影響を受けにくく、耐久性もあるカップに。フタはホット・アイスに使用できる「ストローレスリッド」を導入。フタに飲み口を付けることで、アイスであればストローなしで飲むことができます。今回の取り組みによって、1 杯あたり約 6 割のプラスチック使用量を削減。年間を通じて、約 6100 万杯分のプラスチックカップ削減に繋がっていきます。

●低脱ストロー

全世界のスターバックスで使い捨てのプラスチック製のストローを全廃。紙ストローの提供に切り替えています。素材変更により、年間約 2 億本分のプラスチックストローの削減に繋がっています。

① 地球環境を想う

①

①地球環境を想う　Thinking about the global environment

すべての生命にとって、たった一つの大きな家である地球 。普段、あまりに大きすぎて実感することは難しいですが、この大きな家によって、私たちは他の動物や生命と共に生かされています。このことを忘れないためにも、地球環境に想いを馳せ、個人ができることから小さな行動や選択を積み重ねて、この地球の良き住人でありたいものです。

●マイタンブラーを使う

Earth, our home planet, is the only place known in the universe to host life. While difficult to visualize this concept in our daily life, this home sustains people together with animals and all other living matter. We should remember this and be good residents of this earth by thinking about the global environment, amassing small actions and making wise choices as individuals.

● Using My-Tumbler

マイタンブラー

持参したタンブラーやマグカップに購入したドリンクを提供する取り組みも。資源の節約に協力したお礼として、本体価格（税抜）から20円値引きしてくれます。

My-Tumbler

There is an initiative to serve purchased drinks in tumblers or mugs brought by customers. As a thanks for helping to save resources, a 20 yen discount is offered from the main unit price (excluding tax).

使い捨てプラスチック資源削減

—アイスビバレッジも紙カップで

結露の問題からプラスチックカップで提供してきたアイスコーヒーやアイスティーなどのアイス商品についても、ホット・アイス兼用の新しいペーパーカップでの提供が始まっています。内側と外側にラミネート加工を施すことで、冷たい液体を注いでも結露の影響を受けにくく、耐久性もあるカップに。フタはホット・アイスに使用できる「ストローレスリッド」を導入。フタに飲み口を付けることで、アイスであればストローなしで飲むことができます。今回の取り組みによって、1杯あたり約6割のプラスチック使用量を削減。年間を通じて、約6100万杯分のプラスチックカップ削減に繋がっていきます。

●紙製ストロー

全世界のスターバックスで使い捨てのプラスチック製のストロー全廃、紙ストローの提供に切り替えています。素材変更により、年間約２億分のプラスチックストローの削減に繋がっています。

Reducing disposable plastic resources

Serving iced beverages in paper cups.

Iced products, such as iced coffee and iced tea were offered in plastic cups because of the problem of dew condensation. They are now being offered in new paper cups that can be used for both hot and cold beverages. By laminating the inside and outside cups become durable and are not easily affected by condensation, even with cold liquids. A “strawless lid” that can be used for hot and iced beverages, has also been introduced. By attaching a spout to the lid, the iced beverage can be consumed without a straw. Through this initiative, the amount of plastic used per cup has been reduced by approximately 60%. This will result in the reduction of approximately 61 million cups per year.

●Paper straws

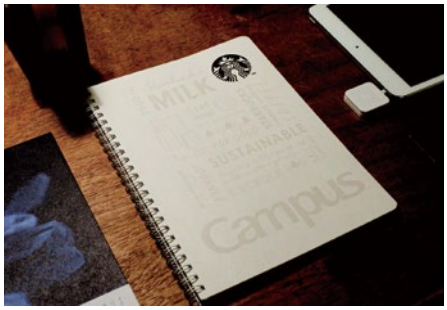
Starbucks worldwide has completely stopped offering disposable plastic straws and switched to paper straws. This change has led to a reduction of approximately 200 million plastic straws per year.

豆かすリサイクル

コーヒーを抽出したあとに残る豆かす。この豆かすを有効に活用する、持続可能な循環システムの構築を目指した取り組みをさまざま行っています。店舗で使用しているトレーも実は豆かすのリサイクルによるもの。コーヒー豆かすと国産木材を利用して作られています。また一部店舗の内装材としても、豆かすを活用しています。

Recycling coffee dregs

Starbucks is making various efforts to build a sustainable circulation system that makes effective use of coffee dregs. For example, trays to hold drinks and food in stores are made from recycled coffee dregs and domestic wood. In some stores, coffee dregs are also used in the store's interior design materials.



ミルクパックリサイクル

お店から出たミルクパックは、リサイクルによってペーパーナプキンやお手拭きに。また、コクヨ株式会社とのコラボレーションで、キャンパスノートにリサイクルする取り組みも行っています。

Recycling milk packs

Milk packs from stores are recycled into paper napkins and hand wipes. And in collaboration with KOKUYO Co., Ltd., they are working to recycle them into campus notebooks.

エシカルな調達

コーヒー生産者、そして生産地域との関係を構築しながら、長期的に高品質なコーヒー豆をエシカルに調達する取り組みを行ってきました。10年以上の取り組みにより、2015年には、スターバックスが買い付ける全てのコーヒー豆の99%が、エシカルに調達されるに至り、以降継続しています。

Ethical procurements

While building relationships with coffee producers and production areas, Starbucks has been making efforts to procure high-quality coffee beans in an ethical way over the long-term. By 2015, after more than a decade of effort, 99% of all coffee beans purchased by Starbucks have been ethically procured, and this has continued since then.

②建物を継いでいく　Sustainable use of buildings

建物を有効活用し次世代に継いでいくことは、エコロジーの観点からだけでなく、私たちの文化を守り伝えていくことにもなります。古き良き建物には、そこで暮らし働いた人々の歴史や時間が色濃く残っていて、そのことが文化にとって重要なのです。また、そうした建物が多く残る街の景観は、とても美しいものです。

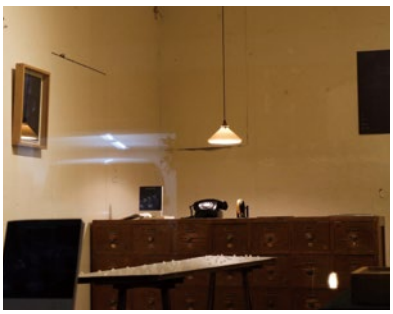
●古き良き建物に書店を構える

Using buildings effectively for generations is beneficial from economic and ecological viewpoints; it is also an effective way to pass down our culture and traditions. Fine old buildings remain the history and time of people who lived and worked there. These elements play a big part in our culture. Furthermore, the landscape of the town, where many such buildings remain, is always very beautiful.

● Opening a bookstore in a fine old building

③限りあるエネルギーと水

Limited energy and water



エネルギーや水がどうやって私たちの暮らしに届けられるのか？ そのことを知るだけでも、それらに限りがあることが容易に想像できます。ボタンを押すだけ、蛇口をひねるだけの暮らしに慣れた私たちが、知らず知らずのうちに大切なエネルギーや水を枯渇させてしまうことがないように、できることとは 何でしょうか。

●LED 照明を使用

When we acquire literacy on how energy and water are delivered to us, we become aware of how precious these resources are. Yet, as we are accustomed to living by simply pressing a button and turning on a faucet, it is difficult for us to imagine limited resources; however, we unwittingly deplete our precious resources through these actions. So, what can we do to avoid resource depletion?

● Using LED lights

④地域の繋がり

Connecting with the local community

灯台下暗しとはよく言ったもので、思わぬ宝は身近な地域に隠されています。それは、魅力的な人であったり、素晴らしい技術であったり、美味しい食べ物だったりと、自分の等身大の暮らしを豊かにしてくれるものです。また災害時や何かあった時の セーフティー ネットとしても、地域との繋がりは大切です。

●銀座にある活版印刷の老舗

Unexpected treasures are often found “right under our noses” in our local community, but somehow, they may go unnoticed. These treasures include local knowledge excellent skills, and delicious food which can make our life richer. Connecting with our local community not only enhances our lives, but also provides a safety net when a disaster or something unexpected happens.

● Long-standing typographic printing shop in Ginza

⑤豊かな食事　Eating for the planet

美味しい食事をお腹いっぱい食べることのできる暮らしに感謝しながら、その食べ物がどこから、どのようにして食卓に運ばれてきたのか？を知って想像し、選択することで本当の意味での豊かな食生活を実現したいものです。 また、適切な量を食べることはフードロスを減らすことに繋がり、自身の健康維持にもつながります。

●適切な量を食べる

While expressing our gratitude for a life in which we can eat abundant and delicious food, we should also learn to choose our food responsibly through knowing where it comes from and how it is transported to us. If we can make good choices, and at the same time not take more than we can eat, we can bring true richness to our dining table, and will make the planet richer. Eating an appropriate amount also leads to less food loss and helps maintain our health.

● Eating adequate amounts

アウトドア企業として知られるパタゴニアは、実は体にも地球にも配慮し、再生する食品を提供しています。例えばシリアルバー、スープ、魚介のオイル漬け、ビールまで。なぜ食品の取り組みをするのか、という答えとして、その先の未来を創業者のイヴォン・シュイナードはエッセイの中でこのように描いています 。「地球を枯渇させるのではなく、修復し、風味豊かで栄養価の高い食品で満たされた未来。土壌の健康を構築し、動物の福祉を確実にし、農業従事者を保護する方法で食品が生産されることをたしかにするリジェネラティブ・オーガニック認証が広く適用される未来」。何をどう食べるかということも、再生可能な未来を確かなものにするのです。

Patagonia is known as an outdoor company. It provides regenerative foods that take into consideration both the body and the earth, for example, cereal bars, soups, seafood pickled in oil, and beer. As an answer to why they are making efforts to offer food, the founder, Yvon Chouinard, describes the future in an essay: "… (A) new kind of future. One filled with deeply flavorful, nutritious foods that restore, rather than deplete, our planet. A future with widespread adoption of Regenerative Organic Certification, which ensures that food is produced in ways that build soil health, ensure animal welfare and protect agricultural workers." (from Why Food? patagoniaprovisions.com website) What and how we eat will also ensure a sustainable future.

⑥多様性はオモシロイ　Diversity is fun

他者の立場で考えたり、理解をするということはなかなか難しいことです。ですが、前提として各々が違うという視点に立てば、その違いからそれぞれに生まれる見方や表現が面白いと感じられるかもれません。まずは身近な家族や友人から、「同じであること」よりも「違う」ことを見つけ合い、その面白さを発見してみましょう 。

●幅広い世代のお客さま

It may not be easy to think or understand from the perspective of others. However, if we accept the premise that everyone is different, we may find it interesting to consider perspectives and viewpoints which differ from ours. First, from close family members and friends, let us find out "what is 'different', rather than the same", and discover the fun of it.

● Having customers of all ages and ethnicities

障がいのある人もない人も、
共に働き、共に生きていく社会

スワンベーカリーを運営する株式会社スワンはこの理念を実現するために、ヤマト福祉財団、ヤマトホールディングス株式会社と共に設立されました。1998年にスワンベーカリー銀座店が第1号店としてオープンして以来、350 人以上の障がいのある人の経済的な自立を支援。おいしいパンを焼き、提供することで社会で活躍する居場所を作っています。

A society in which people with and without disabilities work and live together

To realize this philosophy, Yamato Welfare Foundation, and Yamato Holdings Co., Ltd. established Swan Co., Ltd., to operate Swan Bakeries. Since the opening of the Swan Bakery Ginza Store in 1998, they have helped more than 350 people with disabilities to achieve economic independence. By baking and serving delicious bread, they play an important role in creating a just and active society.

多様なオモシロさに触れてみよう

各々が「違う」ということを見つけ合い、その面白さを発見する窓は、実は身近なところに開かれています 。企業や自治体が開催するイベントはもちろん、学内のサークル、書店やカフェ、ショップなどでもさまざまな取り組みがあるはずです。聖心女子大学でもパタゴニアと共同で Worn Wear College tour を行いました。愛着を持って長く着続けられる洋服で、自分の個性を表現する楽しさを伝えるイベントになりました。実際、このプロジェクトにかかわった学生は今、学食の食品ロスについて大学に提案する一歩を踏み出しました。また、学内のペーパレス化を提案してくれた学生もいました。多様な人と交流し「個」を見つめることが、一歩を踏み出すきっかけになる。まずは身近な、自分が興味を持てるところからでも、参加をしてみましょう。

Let us touch on various fun aspects

The windows for finding out "differences" among people and discovering fun aspects are already present in our surroundings. In addition to events held by companies and municipalities, there should be a variety of efforts in an on-campus circle, bookstores, cafes, and shops. Last year, in collaboration with Patagonia, the University of the Sacred Heart held the "Worn Wear College Tour". It became an event that conveyed the joy of expressing one's individuality, with clothes that can be worn with attachment for a long time. The students involved in this project have now taken steps towards submitting a proposal to the university about food loss in the cafeteria. Some students suggested making the campus paperless.

Interacting with a variety of people and looking at the "individual" is an opportunity to take a step forward.

First of all, let us participate in the aspects that are familiar to us and that we are interested in.

⑦移動の楽しみ　Enjoying the journey

通勤や通学など、なるべく早く効率的に移動しなければならないことも多いですが、時には時間に余裕を持って、歩いたり自転車で移動することをオススメします。エコロジーかつ健康的であることは言わずもがなですが、今まで見落としていたものや思わぬ出逢い、喜びを見つけることができるかもしれません。

●愛用の自転車

In many cases we need to travel as quickly and efficiently as possible, for example, when commuting to work or school. But sometimes it is better to take extra time to walk or go by bicycle so that we can take pleasure in the journey: finding things we may have overlooked before, or experiencing unexpected encounters which bring us joy. These alternative ways of travel improve the quality of the environment and in turn bring us added health benefits.

● Favorite bicycle

⑧知って買う　Buying after knowing

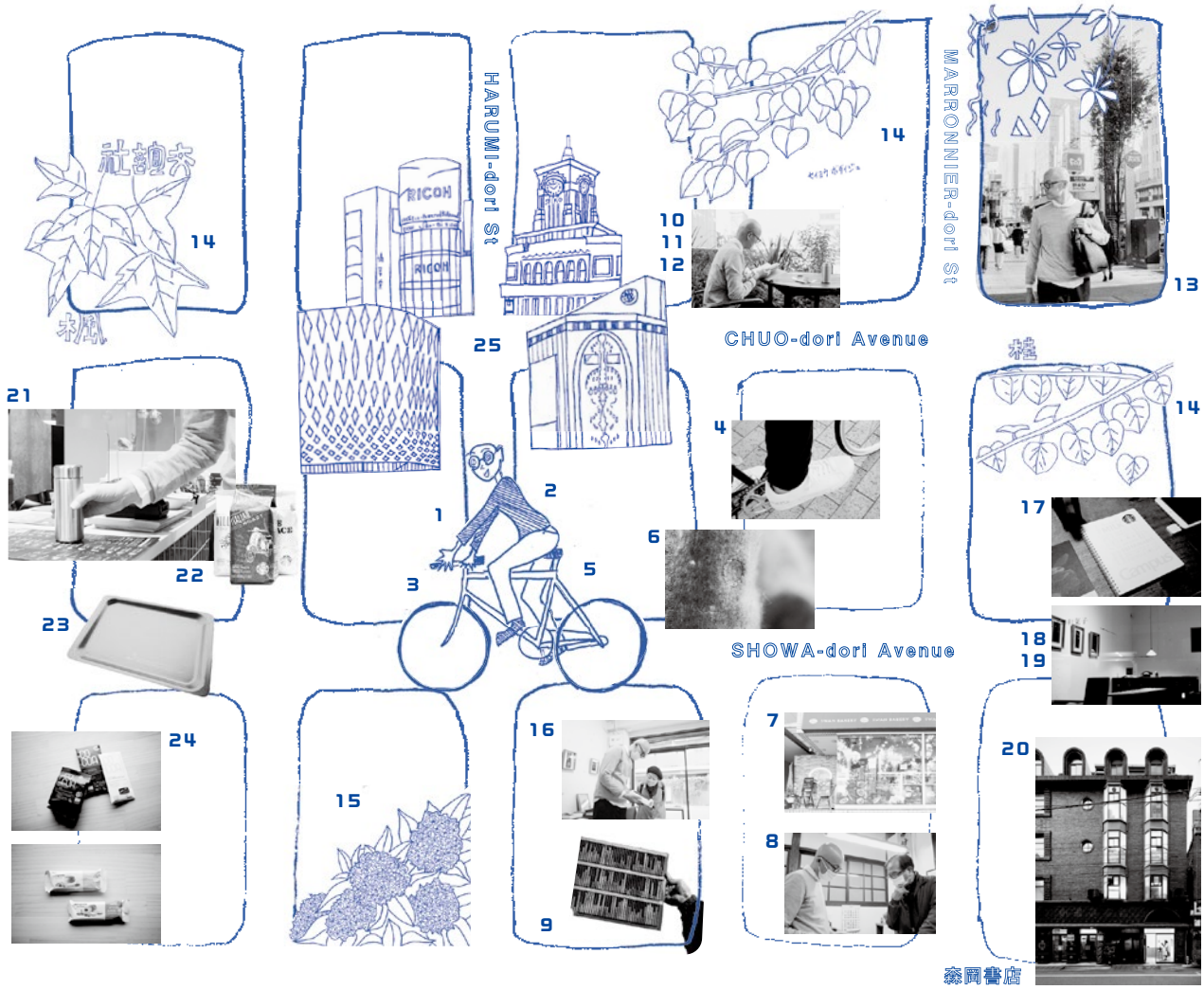
その物が誰によって、何を原料に、どのようにして作られたのか？ など。そのことを知って買うことは、自分の知識を深める体験であると同時に、物への愛着が生まれるきっかけになります。愛着があれば長く大切に使うことができます。また消耗品等であれば、捨てる際になるべく自然環境に負荷のかからないものを知り、それを買うようにしましょう 。

●ダーニングを施したニット

Who made the product? What was it made from? How was it made? Having this knowledge when buying items deepens our understanding and motivates us to make responsible choices. This in turn allows us to become attached to things. If you have an attachment, you will use the items more carefully for a longer time. In the case of consumable items, let us make sure to find and use the items that burden the natural environment the least when discarded.

● Darning a hole in a piece of knitwear

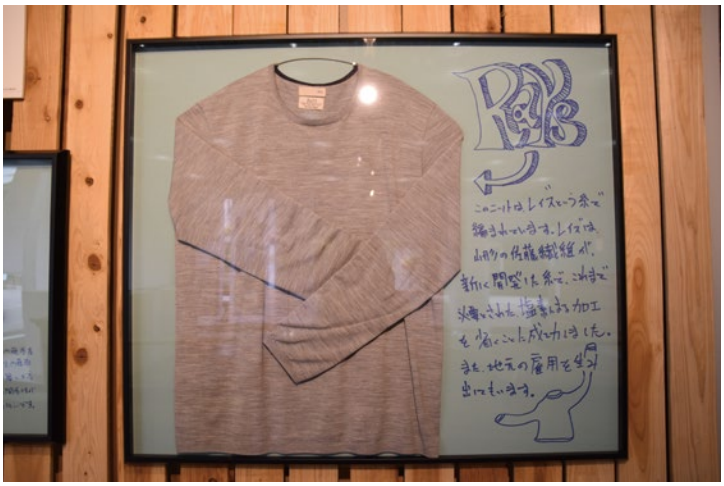
URBAN SUSUTAINABILITY Learning from THE GINZA By YOSHIYUKI MORIOKA



1.プラダ　ReNylonバッグ
2.佐藤繊維「RaYS〈レイズ〉のニット」
3.自転車移動
4.アディダスのリサイクル
　ポリエステルスニーカー
5.パタゴニアのパンツ
6.ダーニングで長く着る
7.買うことで福祉活動を応援
8.銀座との繋がり
9.活版印刷
10.古本
11.屋上公園
12.ホッとできる場所
13.歩いて街を再発見
14.街路樹
15.街なかの花
16.さまざまな世代との関わり
17.再生紙のノート
18.愛着の生まれるもの選び
19.小さな灯
20.古き良き建物
21.マイボトル
22.フェアトレードのコーヒー
23.再利用什器
24.作り手のわかる食べ物
25.多文化の共生

森岡さんのSDGsな“モノ”がたり

SDGs storytelling (monogatari) by Yoshiyuki Morioka



レイズのニット

23年前のダウンジャケットは、大切に修繕をして今もなお大活躍！

ブルーノ・タウト本

写真　旧雪害調査研究所

棕櫚（しゅろ）の箒

森岡督行がすすめる3冊の本

Three books recommended by Yoshiyuki Morioka

森岡書店で今まで扱った本や、ブックセレクトの仕事で取り上げた本の中から、SDGs の観点に基づいたものを選んでもらいました。

We asked him to select books based on his view on the SDGs. His choices are from the books he has offered at Morioka Shoten and the books featured in his work of Book Select.

「The Family of Man」

Edward Steichen

戦争の悲惨さを伝えるよりも、平和や愛の尊さを伝えた方が、よりたくさんの人々に浸透するのではないかと、この展覧会が開催されたといいます。私も良い方をのばすという考え方に賛成します。

It is said that this exhibition was held with the hope that it would be more touching to convey the preciousness of peace and love, rather than to convey the misery of war. I also agree with the idea of conveying the good.

「じゅんびはいいかい？ 名もなきこざるとエシカルな冒険」

文:末吉里花　絵:中川　学

子どもに読み聞かせることを通して、エシカルという考えを大人も共有することができます。何かを買うときの基準が変わるのではないでしょうか。

Are You Ready? The Journey to the Veiled World

Text: Rika Sueyoshi. Picture: Gaku Nakagawa

Adults can also share the ethical idea by reading it aloud to children.Your criteria for buying something will change.

「On the Beach 」

ヨーガン レール　　Jurgen Lehl

海洋投棄されたものを用いて作品や商品にすることはよくありますが、そのイメージに対してたくさんの人々が共感するということは少ないかもしれません。ヨーガンレールさんが作り出したものは、海洋投棄されたものをアート作品に変え、しかもたくさんの人々に支持されているという点において、素晴らしいと思います。

It is common to use materials dumped into the ocean for creating works and products, but it may be rare for many people to sympathize with this image. What has been created by Jurgen Lehl, I think is remarkable, because he turns materials dumped into the ocean into works of art, and is supported by many people.

暮らしから捉え直す SDGs ／気候アクション Exhibition Movie

Reconsidering our daily life SDGs/ Climate Action

この動画では、森岡書店、森岡さんの１日を追いました。森岡さんの視点を通じて、日々の暮らしでできることを考えてみましょう。

In this video, we followed Mr. Morioka of Morioka Shoten (bookstore) for a day.From Mr. Morioka's perspective, let's think about what you can do in your daily life.

「未来へ手渡す、豊かな多様性」

撮影・編集 ：山根晋

Photography and edition: Shin Yamane

第４期展示の様子

謝辞　Thanks to

本展示にあたりましては、
以下を含む多くの団体・個人の皆さまにご協力をいただきました。
心からお礼を申し上げます。

［撮影ご協力］
・スターバックスコーヒージャパン株式会社
・株式会社スワン
・株式会社三越伊勢丹 三越銀座店
・株式会社中村活字
・パタゴニア日本支社

［制作］
・聖心女子大学

［企画・動画制作］
・山根晋

［グラフィック・展示デザイン］
・三星安澄

［設営］
・加藤治男

［進行マネージメント］
・竹田理紀

ワークショップの企画・運営については、認定特定非営利活動法人開発教育協会（DEAR）とグローバル共生研究所が共同で行っています。

[担当教員]

気候変動展示プロジェクトリーダー
永田佳之
聖心女子大学グローバル共生研究所 副所長
聖心女子大学現代教養学部教育学科教授

第1期 ファッション×気候変動
西原直枝
聖心女子大学現代教養学部教育学科准教授

第2期 女性と社会的弱者にとっての気候変動
ブレンダ・ブッシェル Brenda Bushell
聖心女子大学現代教養学部英語英文学科教授

林真樹子
聖心女子大学グローバル共生研究所助教

神田和可子
聖心女子大学博士後期課程

第3期 気候変動とスポーツの祭典
永田佳之
聖心女子大学グローバル共生研究所 副所長
聖心女子大学現代教養学部教育学科教授

第4期 暮らしから捉え直す SDGs/気候アクション
永田佳之
聖心女子大学グローバル共生研究所 副所長
聖心女子大学現代教養学部教育学科教授

[展示制作協力]
認定NPO法人開発教育協会(DEAR)
大橋正明
聖心女子大学グローバル共生研究所所長
聖心女子大学現代教養学部人間関係学科教授

※組織名・肩書きは展示開催当時のものとなります。

聖心女子大学「気候非常事態宣言」

Climate Emergency Declaration The University of the Sacred Heart, Tokyo

気候非常事態宣言（CED）の表明

2020年5月22日聖心女子大学は
「気候非常事態宣言（CED）」を表明しました。

この宣言は、2020年5月現在、世界30か国、約1,500の自治体と議会や大学などが、環境問題に関する意志を表明したものです。本学の宣言には、国連等が標榜する普遍的な理念への支持をはじめ、色やゴミなどのキャンパス・ライフにおけるアクションも盛り込みました。ポスト・パンデミック（アフター・コロナ）時代においてこれまで以上に重要性を増す持続可能な社会を目指して、皆様とともに課題解決に向けて共に歩んでいければと願っております。

**聖心女子大学は、ここに「気候非常事態宣言」を発し、
将来世代のために気候変動に適応し、
その影響を緩和することを目的に、
教職員は次の責任ある応答をしていきます。**

1. 若者たちが持続可能な未来に向けた変化の創り手・担い手となるように、SDGs 関連の活動の支援に努めていきます。
2. 国連等が提唱するACE（Action for Climate Empowerment）を推進します。
3.「 気候変動に関する倫理原則」（UNESCO, 2017）に則り、「最も脆弱な人々を含むすべての関係者の有意義な参加が気候変動とその悪影響に対処するための効果的な意思決定に不可欠である」ことを認識し、気候正義の問題に取り組んでいきます。
4. 全学的に気候変動（SDG13）はじめ、SDGs を意識した授業や課外学習を設計します。
5. 学生の意見を積極的に取り入れ、教職員も学生も協働しながら気候変動対策に取り組んでいきます。
6. 教室内での教えが実際にキャンパスで実践されるようにエネルギーや食、水、紙、ごみの分野での改善に全学的に努めていきます。
7. 学生及び市民が持続可能な未来に向けて価値観・行動・ライフスタイルを変容させていくように学習機会の提供に継続的に努めていきます。
8. 教育・研究活動を通じて、気候変動に関する知識・技能を提供し、気候正義について深く考える機会を積極的に設けます。
9. ESG（環境・社会・ガバナンス）に配慮した大学運営を推進していきます。

2020年5月20日
聖心女子大学
学長 髙祖 敏明

The University of the Sacred Heart, Tokyo, herewith, resolves to declare a climate emergency. In order to adapt and mitigate the impact of climate change for future generations, faculty and staff members pledge to take responsible action to:

1. Support activities concerning Sustainable Development Goals (SDGs) so that young people may become creators of and agents for change towards a sustainable future;
2. Promote Action for Climate Empowerment (ACE) as advocated by the United Nations and others;
3. Work on issues of climate justice based on the Declaration of Ethical Principles in Relation to Climate Change (2017) adopted by UNESCO, recognizing “that meaningful participation of all stakeholders, including the most vulnerable, is essential to effective decision-making to address climate change and its adverse effects”;
4. Design courses as well as extra-curricular learning activities on SDGs, with special focus on No. 13 of the Goals;
5. Take measures on climate change in collaboration with students, fully taking into consideration their opinions;
6. Put teachings from the classroom into practice by engaging in a wholeinstitutional commitment to sustainable resources across campus regarding energy, food, water, paper and waste;
7. Provide seamless learning opportunities for students and citizens to support a change in their values, behavior and lifestyles towards a sustainable future;
8. Impart knowledge and provide skills concerning action on climate change, and also actively offer opportunities to think deeply about climate justice through educational and research activities; and
9. Proceed with institutional management, actively taking environmental, social and governance (ESG) issues into consideration.

May 20, 2020
President
Toshiaki Koso

（気候非常事態宣言に沿った「死蔵服」譲渡会を開催しました。）

背景と経過説明

2015 年 9 月、国連持続可能な開発サミットで「我々の世界を変革する：持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」が採択されました。そこでは、2030 年までに持続可能な社会を実現するために全世界で共通の 17 の目標からなる SDGs（持続可能な開発目標）が掲げられており、気候変動はその 13 番目のゴールとして具体的な行動が求められるようになりました。

同年 12 月に開催された第 21 回国連気候変動枠組条約締約国会議（COP21）においては 2020 年以降の温室効果ガス排出削減等のための新たな国際枠組みとしてパリ協定が採択されました。この協定では産業革命以降の気温上昇を 1.5 度に抑える努力目標が掲げられており、2050 年までに温室効果ガスの排出を実質ゼロにする必要があります。

こうした世界の共通目標が掲げられた背景には、近年とくに深刻化する自然災害、つまり猛暑、干ばつ、大型台風、集中豪雨、洪水、海面上昇、大規模な森林火災が挙げられ、人間による活動に起因する自然現象が多くの被害をもたらしていることが科学的に証明されています。

このような「気候危機」とも呼ばれる時代の趨勢の中、若者たちが世界中で立ち上がるようになりました。2019 年 9 月、ニューヨークの国連本部で開催された「国連気候行動サミット 2019」に合わせて行われた「気候ストライキ」や「気候マーチ」に参加した若者は 160 ヵ国、400 万人に上ると言われ、自分たちの未来を奪うかもしれない開発のあり方に対する問い直しを大人世代に求めています。

次世代の声に応答する形で気候変動の時代における教育の役割も見直されるようになりました。従来のように温暖化や気候変動に関する知識を授けるのみならず、アクションを起こす若者を支援していくことや若者とともに問題解決に向けて取り組んでいくことがより重視されつつあります。国際的には「気候変動対策をエンパワーするアクション」（ACE: Action for Climate Empowerment）が標榜され、各国で努力が積み重ねられています。聖心女子大学でもこのような国際的な意思に賛同し、上記の諸課題に取り組んでまいります。

Background and Rationale

In September 2015, the United Nations General Assembly unanimously adopted a resolution called Transforming Our World: the 2030 Agenda for Sustainable Development. The document lays out 17 Sustainable Development Goals (SDGs); Goal No. 13 concerns climate change and calls the whole world to urgent action.

In December of the same year, the 21st Conference of the Parties to the United Nations Convention on Climate Change (COP21) was held, and the Paris Agreement, a new international framework aiming to reduce the emission of gases that contribute to global warming, was adopted. This Agreement sets an achievement goal, pursuing efforts to limit the temperature increase to 1.5°C above pre-industrial levels. In order to achieve this, we need to decrease carbon dioxide emissions substantially to zero.

The circumstances that led to setting these international common goals are the rise in serious natural disasters, such as extreme heat, drought, super typhoons, concentrated heavy rains, flooding, sea-level rise and large-scale forest fires. It is scientifically proven that human influence has made these disasters more severe.

In the midst of today's climate crisis, younger generations are standing up to take action. In September 2019, more than four million youths from 160 nations participated in climate strikes or marches, simultaneously with the UN Climate Action Summit 2019 held at the United Nations Headquarters in New York. They are urging older generations to change the current development model now to ensure the future of today's youth.

In response to the voices of youth, the role of education must also be reviewed. It is now even more important to support and address the issues young students stand for, rather than simply providing them with knowledge on global warming and climate change. International Action for Climate Empowerment (ACE) has been stipulated and efforts have grown worldwide. The University of the Sacred Heart, Tokyo, has agreed to join this international effort and is committed to addressing the above-mentioned issues.

聖心女子学院姉妹校
5校の高校生交流活動

Active learning in collaboration
with the 5 Sister High Schools of the Sacred Heart in Japan.

日本国内の聖心姉妹校5校が連携し、1997年にSOFIS（S：札幌聖心女子学院、O：小林聖心女子学院、F：不二聖心女子学院、I：聖心インターナショナルスクール、S：聖心女子学院（東京三光町））は発足しました。社会意識や国際意識の向上に努めながら高校生に可能な活動のあり方を考えるという目的のもと、「環境問題」「難民」「他宗教への理解」など、地球市民として「共生」を生きる上で不可欠なテーマに取り組んできました。毎年テーマを設定し、5校代表者が集い理解を深める交流活動を行っています。

事前学習のプレゼンテーション、フィールドワーク、講義、分かち合いなどを通して考えを深め、学びを各校に持ち帰り、それぞれの活動につなげるよう励んでいます。近年は、ソウルや台北の姉妹校の生徒も参加しています。

高校生が考える気候変動

How do high school students learn about climate change?

2018年度は不二聖心女子学院を会場校として、SDGsの13番目の目標「気候変動に具体的な対策を」に焦点を当て、気候変動に対する国内外の動向について知識を高め、自分たちは具体的にどのように行動していくかを考えました。

事前に「気候変動の影響（海面上昇・砂漠化・洪水・生態系等）」「日本の環境対策」「世界の環境対策」「環境教育の動向」を各校で調べ、当日ワークショップで活発な意見交換が行われました。また基調講演「生き物で気付く地球温暖化」やフィールドワーク「リコー環境事業開発センター訪問」などを通して、新たな視点を養いました。

2019年度は札幌聖心女子学院を会場校とし、SDGs17の目標から各校１つを選び５つの目標について考えます。グローバル社会に生き、そのリーダーとなりえる聖心の生徒として、自ら考え・自ら行動することを目指しています。

不二聖心女子学院での取り組み
日々の生活とSDGs

不二聖心女子学院では、各月ごとにSDGsの目標を設定し、1月には「気候変動」を選び、生活目標、全校集会、中学校・高校の朝礼のお祈りの中に取り入れたり、植樹活動を行うなど、独自の取り組みを展開しています。

また、毎年9月に、高校2年生全員がパリのユネスコ本部でESD×SDGs 研修に参加しています。